

MASUKI INFO. DESK FIGHTING REPORT

関西の
政治

No. 163
【発行・編集】
MASUKI 情報デスク
増木直美
大阪府豊中市上新田 2-6-25-113
TEL 090-3621-1509
FAX 06-6835-0974
http://mid.parfe.jp/
mid@jewel.ocn.ne.jp

勇気とは…リスクを背負うこと

期せずして、2件の「勇気とは何ぞや」と言うご意見をいただいた。お二人のご意見に全く共鳴します。少々危険でもやらなあかん時はやらなあかんでしょう。

4年前、東北の震災瓦礫をどうするか議論になった。各県口々に「安全なら」と言った。じゃあ、少々汚染されていたらどうするのか。福島県民に「お前ら汚染土と心中しろよ」とでも言いつもりか。言わなくとも事実上そうなる。

大阪市の橋下市長が真つ先に「引き受ける」といった。私はそれを誇りたい。でも、立場上あ言わなければならなかったのだらうけど「安全なら」。とは言ってほしくなかった。「誇り」も中くらいかな。

国内規模でも、地球規模でも「危険を共有して真の友人になれる。」ではないだろうか。 増木

ISIL(イスラム国)の日本人 質殺害に関する野党・元官僚 の発言(1)野党

H27-2-9 千葉県 近藤将充

先日水野賢一参議院議員が国会での質問の冒頭に、人質事件について「盗人にも三分の理」があるような発言は問題である旨指摘していた。

尤もな指摘である。
野党や元官僚たちの問題発言の具体的な内容は、既に新聞でもテレビでも報じられているので繰り返すは避けるが、政党

レベルでいうとお粗末な発言が際立って多かったのは民主党であった。

このお粗末発言を見聞きするにつけ民主党が政権を担っていた3年間に日本国家がどれほど毀損され、また国民にどれだけの嘘をついたか(最低保障年金月7万円、高速道路無料化など)、当の民主党自体が既に忘却の彼方にあることがよく分かる。この無責任体質、反省の無さが気楽な野党の立場になって更に加速され、国会議員にあるまじき発言の多さに現れていると言えよう。

元政府高官の官僚や相変わらずの反日メディアの同様の発言も含めこれらに共通するのは、戦後の日本の宿命ともいへば「一國平和主義」の病根である。

今回のことで私の脳裏には、24年前の湾岸戦争時のご浮かび上がった。その折思ったことを小論文に纏めたが、今回のケースにもそのまま当てはまるので少々長くなるが引用しながら筆を進めたい。

湾岸戦争で日本は自衛隊を派遣せず、その代りという訳でもないであろうが、130億ドルという巨額の金を抛出した。1億2千万人の国民が一人頭1万円以上拠出するという途方もない話である。湾岸戦争が終了しクエート政府は支援してくれた国々への感謝を表したが、日本は対象になってはいなかった。

別に感謝されるためにやったのではないと言えなくもないが、この日本の振る舞いは国際社会からは小切手外交と失笑を買っただけに終わったことは銘記されるべきである。

さて湾岸戦争終了後各国海軍は、フセインがペルシャ湾に敷設した機雷の除去(掃海)に従事していた。海上自衛隊の掃海能力は世界でもトップクラスであり、

各国からその参加が望まれていたが、幸い日本も遅ればせながらも掃海部隊が参加し、各国海軍と協力し危険な掃海作業に従事した。

このペルシャ湾での掃海作業であるが、掃海部隊指揮官の落合1佐(当時)がある時各国の指揮官に、「湾岸戦争で日本は何もしなかったと世界は言うがそんなことはない。日本は国民一人頭100ドル以上出して貢献した」といったところ、各国の指揮官は異口同音に「落合それは違う。こんなにも危険で苦しい作業を100ドル払ってしかも済むなら我々は100ドル払って今すぐにも国に帰る」といったそうである。

また当時クエートの町では青年たちが、湾岸戦争に協力してくれた国に感謝の意味を込め国旗を背中に染めた「シャツを着ていたが、そこには巨額の金を抛出した日本の国旗は無かった。

しかし海上自衛隊が参加して一ヶ月くらいたった頃から、日の丸を染めた「シャツを青年たちが着た」のだらう。この話は無事任務を果たして帰国した落合1佐から直接聞いた話である。これは何を意味するのか。自らは数千キロ離れた安全なところに身を置き、金満家宜しく巨額の小切手を切り俺も貢献したんだといったところで、軽蔑こそされ国際社会からは一顧だにされないということである。つまり「共同のリスクを負わないものは仲間ではない」ということである。これが国際社会のルールなのである。

しかもペルシャ湾は日本のタンカーが一番多く行き来しここが封鎖されたままだと日本が干上がってしまう海域である。戦後の日本人は、絶えて久しくこの感覚を忘れていたといえよう。

多少の危険が予測されても世界秩序の構築に自らも主体的に参画する、これは国際社会の一員として、しかもアジアで唯一のサミットメンバー国としての日本の当然の責務である。

民主党を筆頭に野党や元政府高官たちが、安倍首相の対応が人質事件を招いたと恥ずかしげもなく発言しているが、彼らに共通しているのは「**はたどうすればよいのか**」についての提言が無く、口を閉ざしていることである。

国家運営のリーダーともいべき彼らのこの卑劣さ・無責任さには、いつべき言葉も知らない。日本は憲法9条の制約もあり、軍事力での参加の選択肢はない。いまイラクからの難民は180万人を超えているといわれる。内戦の「**に浸食**」されているシリアからの難民も含めると恐らく200万人は優に超えているであろう。その難民の大部分はヨルダンに逃れていると思われる。ならば日本が人道上の見地から難民対策費としてヨルダンに2億ドルの支援をするのは、憲法の制約下でも国際社会における主要国としての責務を効果的に果たせる最良の施策であり、また非道な過激派集団とは取引しないという断固たる日本の姿勢は、国際社会の秩序安定に寄与する国、つまりは「**共同のリスクを負う仲間である**」との信頼・評価につながるものである。これを批判する面々は、常識や話し合いの通じない過激派の要求に唯々諾々として従い、2億ドルを身代金として払えとでもいうのだろうか。

殺人・強奪・レイプ・誘拐、何でも有りの過激派との取引は、仮に身代金を払うことによって人質を救出できたとしても結果として日本は誘拐ビジネスが可能な国として際限もない人質事件を誘発する事態に陥ることになる。

事実二人の人質が痛ましいことになっても、政府の再三の警告を聞かずシリア入りを目指し旅券を回収されたフリーのカメラマンがいる。仮に政府が身代金を払うことによって人質が釈放でもされれば、スクープ狙いのジャーナリスト・カメラマンが、より多くイラクやシリアの「**支配地域に立ち入る**」であろうことは想像に難くない。そしてその都度日本政府は身代金を払い、かくして邪悪な過激派集団の非道な行動のための軍資金を提供し、日本以外の国の人々の人命を危険に晒すことに手を貸すことになる。

安倍首相を非難する政治家・官僚・反日メディアは、尤もらしく言葉を飾っても、「**いま述べたようなことをせよ**」と安倍首相に迫っているに等しい。日本だけが、日本人だけが平和で安全であれば良いという身勝手な「**一國平和主義**」が国際社会で許されるはずもない。

今回の安倍首相のように「**国際社会と連携し、非道な過激派とは断固として戦う**」という振る舞いこそが、大きな意味で日本人の安全に寄与した国際社会の信頼と敬意そして名誉ある地位を占める唯一の道である。最近の世論調査によれば、国民の6割が安倍首相の対応を支持している。先に述べた湾岸戦争時の苦い経験を国民は学習したのかもしれない。それに比べ未だに「**一國平和主義**」に浸り眠りかけている面々は、目覚めている大方の国民から厳しい蔑みの目が向けられていることを肝に銘するがよい。

史上最大の爆破テロリストに毅然と立ち向かった男たち
2015-02
現代撫子倶楽部 中谷良子
Jellyの〜日本のタンナー〜
<http://ameblo.jp/ryobato/>

今、何かと世間を騒がせているイスラム問題ですが、ここ日本でも過去に毅然とテロリストたちを執念と過酷な努力、信念で追い込み、事件を解決に導いた方々がいらっしやるのをご存知ですか？ そんな名もなき勇者の方々の実録本をご紹介します。

以前にも、ご紹介したと思いますが、爆弾闘争が激化していた昭和40年代に東京を恐怖のどん底に陥れた連続企業爆破事件での警視庁公安部、新聞記者たちの緊迫した死闘、苦悩、勇気、執念をリアルに描いた、また朝日新聞の吉田調書報道が捏造であると最初に告発し、勇気を持って巨大組織に論戦を挑んだ門田隆将氏渾身の、すべて実名でのノンフィクション作品で、本当にお勧めです。

『**狼の牙を折れ**』

過去にも覚せい剤犯罪者から逃げた警察官や、とくに安定だけを求め、何の責任感もない甘ったれた公務員希望者の墮落した若造に読んでいただきたい！

公務員ならなんでもいいと思つて警察官になった結果、速攻で退職する警察官が続出

<http://revsoku.com/janai/5444>
とくにこの本の文中の中で、とても印象深く、感動したのが犯人がタクシーに乗

り込み、それを追つ形での五十嵐捜査官が、行動確認の最中、巻かれることを懸念、機転を利かし同じくタクシーに乗り込み、犯人を追尾している最中にタクシー運転手に言った一言。
「運転手さん、信号無視していいから、もし何かあったら、俺、責任取るので、頼みます」

この一言が言える警察官が今どのくらいいるでしょうか？ もちろん信号は赤で無視してはいけません。ルール、法は守らなければならぬ。もし運転手が誤って人を轢いてしまったら？ そのリスクを覚悟のうえで、五十嵐捜査官は犯人を執念で、とことん追い詰めました。

さて現在はどうでしょうか？ 何もかも四角四面のマニユアル通りにしかできず、がんじがらめにされている現代日本社会の組織の縮図は(警察、行政、司法、教育界)マニユアルに縛られすぎて柔軟に対応できず、犯罪、被害を拡大させていくんです。

目には目を、歯には歯を、というのは時として絶対に必要なことです。入念に作成されたマニユアルは「書いていないことが起きた場合は責任をとらない」という「免罪符」としての機能しか果たしていません。紙切れに書かれていることしかできず、紙切れに書かれていないのに心を奪われ、自ら考えることがないので大胆な発想の転換ができない思考停止人間が蔓延する一方で、昔の警察官は、あえて自らそのリスクを背負つても覚悟、信念、警察官としての責務それらを兼ね備えていたように思います。

日本のあらゆる組織が、マニユアル信仰から脱却しなければ、日本に明るい兆しが見えてくることはありません。もうひとつのエピソードとして、極左

暴力取締本部で連続企業爆破犯の逮捕を成し遂げた幹部の1人、江藤さんの大和男児たる姿勢に敬服、心が驚掴みにされました。

いよいよ犯人の核心に迫る令状請求、逮捕状を獲得するために裁判官とせめぎ合うのですが、折り合いがなかなかつかず、説明を続ける江藤さんに納得した様子が窺えない。

そのやりとりは
そこで突然江藤さんは立ち上がり、裁判官に深々と頭を下げ、

「これは・・・」

と息を継ぐと、力を込めてこう言った。

「東京のため、日本のためなんです！」

一分のゆるぎもない気迫だった。

「なんとかお願いします！」

一瞬、静寂が流れた。

さすがに「東京のため、日本のため！」という言葉に裁判官も驚いたようだった。

江藤に気圧されたのかもしれない。

「私からもお願いします」

間を置いて、親崎検事が口を開いた。

「一生懸命やって間違いないようですから、なんとかお認めください」

警察、検察がここまで一体となって迫ってくる令状請求などあり得ない。事件も異例なら、令状請求もそれは異例なものになった。

請求する逮捕状は、全部で7人分。

それぞれに住まいに対する検証許可状、

犯人の勤め先、親元などへの搜索差押許可状が20本、これらをすべて複写で一部ずつ用意、裁判官に署名・捺印さえしてもらえればいよいよに準備し、割り印も含めると、印鑑を捺すだけで10分はかかるくらいの量であり、身柄だけでなく、搜索令状も、おびただしい本数であった。

そして“Xデー”が確定したのである。

そんな江藤さんは、食道癌を患い、長い闘病生活の後、2013年7月17日にお亡くなりになられたそうです。

このような警視庁公安部の捜査官たちの大活躍により、数々の爆破テロ事件は全面解決の様相を呈したかのように見えました。現在、国外逃亡した大道寺あや子と佐々木規夫は国際指名手配、桐島聡は全国指名手配、桐島聡は大道寺あや子と共に事件に関して公訴時効が成立しているという状況で、当時の捜査官の方々にとっては、行き場のない怒り、無念さでいっぱいだと思います。

当時の捜査官の方々は、ほとんどが定年退職し、捜査から退いているようですが、今も代を引き継ぎ悪質な爆破テロリストを検挙するために奔走しているとのこと。

このような昔の日本の誇るべき、あるべき姿の素晴らしい警察官が増えてくれることを祈ります。そして警察を毛嫌いされている方々にも一言。

「ニュースに出てくるようなおかしい警察官も一部いますが、良心の呵責に苛まれ、葛藤の日々を強いられている警察官も数多くいることを理解して、穏やかな気持ちで接してあげてください。どんな組織でも同じで、良い人もいれば悪い人もいます。

皆様、是非この本をこー読んでください。

← 門田隆将氏の言葉 →

昭和40年に起こった土田邸爆破事件は、土田警視總監の退官後、12年におよぶ公判の末、被告たちに無罪判決が下され、土田家の無念が晴らされることになったことは広く知られている。

土田邸・白石・ピース缶爆弾事件

<http://yabusaka.mojo.jp/tutidatei.htm>

戦後最悪と呼ばれたテロ事件、8人死亡、380人けが、三菱重工ビル爆破事件から40年…遺族や元捜査員「事件は終わっていない」

<http://japanhistory.blog.jp/archives/1009105135.html>

それだけに一方の連続企業爆破事件では、極本の極秘部隊と爆破犯との熾烈な攻防が、これからも長く警視庁の歴史の中で語り継がれていくに違いない。そこには知られざる現場のドラマが数多く存在するからである。

私は、日本国中が「反権力」という熱に浮かされ、秩序を破壊することが若者の特権とされ、最も大切な「人命」さえ蔑にされたあの時代に、必死で闘った人々の姿を描かせてもらった。高度成長を成し遂げて天下泰平の時代を迎え、昭和元祿とも呼ばれる一方で、長引くベトナム戦争に対する反戦運動や、各大学の学費値上げ阻止闘争など、社会全体が混沌とした状態を呈していたあの時代の

“空気そのもの”を描きたかったのである。本書で記述した通り、捜査官も新聞記者もカメラマンも、自分の持ち場を守り、使命感と責任感を貫き、懸命に目標に向かって突き進んでいたように思う。

果たして、今の日本にこのパワーがあるのだろうか、ふと考えてしまうほどのバイタリティを彼らは持っていた。また、日本人が豊かになってきた時代ではあったものの、貧富の差はやはり大きく、同じ世代でありながら、学生運動をする側は比較的裕福で、一方、警察の門を叩いた側は経済的に恵まれていない人たちが多かった。過激派摘発の陰にはそうした逆の意味の階級闘争も存在していた。

同じ団塊の世代、言いかえれば、全共

闘世代でありながら、大学進学

の機会に恵まれなかった警察官たちの「正義」に対する思いには特別のものであった。石に齧りついてでも、という執念とハングリ―さを示したのは、学生よりも、むしろ犠牲者の底知れぬ無念を胸に刻んだ警察官の側だったと言えるかもしれない。

東アジア反日武装戦線の若者たちがとり憑かれていった「窮民革命論」は、「反日亡国論」につながるものである。すなわち「日本」という国家、あるいはその「存在」そのものを否定し、嫌悪する人々が信奉するのが、これらの理論である。

しかも、これへの心情的なシンパは、今も驚くほど多い。それは60代以上と化した団塊の世代、全共闘世代の一部が持つ独特のものでもある。

マスコミや言論界の中核で、今も大きな影響力を持っているこの世代の底流にある考え方は、形式や過激度は違っても非常に似通っているものがあることに気づく。すなわち現在の反日亡国論につながる系譜を理解し、日本の社会が抱えるさまざまな問題を浮き彫りにするためにも、この時代を描くことは、私にとつて、すなわち、ジャーナリストとして避けて通ることのできないものであったと思う。そして同時に、毅然と生きる人々の姿を描くことをテーマとする私には、史上最大の爆破テロ事件解明に挑んだ無名の人々の“現場力”は、必ず後世に残さなければならぬものであったと思う。

知名もなく、勇名もなし、名を知られることもなく、手柄を誇ることもない、薩で世の中を支える人々の心得と使命を表したこの言葉は、表に出ることのない公安部の捜査官がいつも肝に銘じているものでもある。

同じ団塊の世代、言いかえれば、全共

闘世代でありながら、大学進学

の機会に恵まれなかった警察官たちの「正義」に対する思いには特別のものであった。石に齧りついてでも、という執念とハングリ―さを示したのは、学生よりも、むしろ犠牲者の底知れぬ無念を胸に刻んだ警察官の側だったと言えるかもしれない。

東アジア反日武装戦線の若者たちがとり憑かれていった「窮民革命論」は、「反日亡国論」につながるものである。すなわち「日本」という国家、あるいはその「存在」そのものを否定し、嫌悪する人々が信奉するのが、これらの理論である。

しかも、これへの心情的なシンパは、今も驚くほど多い。それは60代以上と化した団塊の世代、全共闘世代の一部が持つ独特のものでもある。

マスコミや言論界の中核で、今も大きな影響力を持っているこの世代の底流にある考え方は、形式や過激度は違っても非常に似通っているものがあることに気づく。すなわち現在の反日亡国論につながる系譜を理解し、日本の社会が抱えるさまざまな問題を浮き彫りにするためにも、この時代を描くことは、私にとつて、すなわち、ジャーナリストとして避けて通ることのできないものであったと思う。そして同時に、毅然と生きる人々の姿を描くことをテーマとする私には、史上最大の爆破テロ事件解明に挑んだ無名の人々の“現場力”は、必ず後世に残さなければならぬものであったと思う。

少子化対策は故郷づくりから

京都北山細野の神主 より緊急提言

九頭神社宮司 中村重行
<http://blog.goo.ne.jp/hosononoomiyasan>

少子化対策は故郷づくりから

少子化現象が日本の滅亡のようにマスコミでもうるさく叫ばれています。金を出せば少子化現象が止まるわけではありません。女性が子供を産まないのは保育所が足りないからだとか、男にも育児休暇を出さなければとか、学者や役人、政治家が一生懸命に無い知恵をしぼっていますが、少子化はそんな事が原因ではないでしょう。

女性を労働力としてしか見ていない人達の思い違いが原因だと思えます。なぜ結婚するのか？ 子孫を残すためでしょう。少子化が国の存亡に関わるのなら、原点に戻って対策をたてなければ悔いを残すだけではなく日本の国の滅亡につながります。

産業革命以後人間を労働力としてしか考えて来なかったツケが今出て来たのではないかと。効率化のために人間本来の役割を無視して来たのが原因です。結婚の話に戻りますが結婚とは男女の性欲を満足させるためだけにあるのでは無い、性欲は子孫を残すための動物としての本能のほうです。その結果子供が授かれば次には子供を自立させる事(エサを自分でとる事が出来るように)が子供を作った親の役目(本能)だったはずで、ハキチガエタ戦後の教育のために性欲を

満たす事が先行してしまい、肝心の子供を自立させる段階を国(学校や保育所)に放り投げてしまった結果です。これは共産主義(独裁国)の子供は国のものから切り離して独裁者の都合の良いように育てる(飼う?)政策が軌道に乗っているところしか考えられません。もう一度本来の子供は親が育てる、という原点に戻らなくては少子化は進む一方です。

結婚式と言いつつ儀式は親族や仲間たちにこれから子づくりと子育てに励みますよと言いつつ約束の場として意義が有ったのです。その覚悟も無いのに性欲を満たす事だけに励んだ結果が「出来ちゃった結婚」では大切な後の部分の「子育て」が抜けてしまい、義務感だけが残り産まれて来た子供が疎ましくなり虐待につながっているのです。

人類はアミイバーではない。進化の頂点にいる人類がアミイバーの真似は出来ません。オスがメスに途中で変わる事は出来ないのです。少子化対策が変な方になってしまいました。

自然災害から家族を守る

最近各地で小規模な地震が連続して起こっています。京都府でも南部を震源とする地震が続きました。この小さな地震が大震災につながる恐れは今のところ無いようですが地震大国の日本ではどこが大地震の震源地になるか予測が付きません。

阪神淡路大震災、東日本大震災以前からも首都直下型、東南海など太平洋側を震源地とする大地震発生の可能性が叫ばれそのための対策がいろいろ発表されて

います。そのほとんどが建物の耐震補強や大地震に堪えられる構造の建物や数十メートルの津波を防ぐ防波堤のかさ上げ建設など天文学的な大予算を伴う対策です。今ある施設やそこに住む人たちの一部を救う事が出来る対策でしかありません。特に津波の被害は地震による直接の被害より多くの犠牲者を出しました。地震の予知は難しくても津波の予知は簡単です。津波は海からしか襲いません。人々の住まいを海から遠ざければ良い事です。

東日本大震災の復興住宅も津波の届かない地区に建設しています。何故、判り切ったこの対策を震災前にやらないのでしょうか？

近い内に来る事が判っている自然災害に対してたしても力で対抗しようとしていきます。愚かな西洋文化の真似をまだやっているのです。

もうボチボチ自然と共生する日本式の対策に戻るべきです。特に国や地域の大方針に決定権を持つ政治家たちは。

昔は日本人は海近くの低地には住んでいなかった。海抜0メートルに近い所に住居を移し始めたのは近世に

なつてからでしょう。江戸も大阪も、恐らく名古屋もそうだったと思います。地震国と言われる日本で海岸近くに住む事の愚は昔の人は判っていました。戦国時代も山城は作っても海に面した所には居城はありません。津波の恐れのある所には住むための城を構える武将はいなかったのです。東北の被災地の古くからの神社も津波の届かない高台に創建された神社はほとんど後世の創建です。



ログハウス風の我が家(京都市内より約1時間)

日本は四方海に囲まれていますから海洋民族と錯覚している人もいますが、それが間違いの元です。元々は平野の広がる山裾に住居をかまえて暮らして来ました。日本人は山の民なのです。

江戸時代から便利さだけを求めて大都市に人口が集中するようになり埋め立て技術の発達で自然災害の恐ろしさに目をツブリ埋め立て地に人々が住むようになったのです。自然を克服出来ると言う人間の傲慢さが度重なる津波災害を受ける原因なのです。何事も歴史に学ぶと言う謙虚さは、科学の力で解決する事が出来ると言う西洋文明の傲慢さを刷り込まれたわが国の指導者と学者のためにまだしても失われてしまいました。

同じ過ちを繰り返さないために国民が行動を起こせば良いのです。家族を守るのが親の役目なのです。どうすれば家族を守るのか？ 原点に戻って考えて欲しいと思います。

1000万円(500万円でも)で200坪以上の土地に家を建てる

少子化対策に関して思う事を書き出したのに、なかなか本題に到達出来ません。本題に入ります。結婚して、子供を作り、育てて成人になれば親離れさせる。が正しいはず。この正しい方法に沿っての話です。

まじめな若い男女に聞いて欲しい真面目な話です。

私の話の目玉は500万円〜1000万円までで200坪の土地を買って家を建てよう。そしてその家と土地で子育てをしようと言う計画です。少子化の原因は人口が大会に集中したからだと言う私の主張がベースになっています。なぜ大会に人口が集中したら少子化現象が

起こるのか？ 答えは 大会では夫婦が住まい、子供を作り、子供を育てる家庭が作れないからです。家庭を持つ事が出来ない環境が大会なのです。

家庭とは(家Ⅱ住まい)と(庭Ⅱ自然)で「家庭」なのです。「庭Ⅱ自然の無い家」は「オリ」か「カゴ」です。「オリ」や「カゴ」でも動物を繁殖させる事が出来ますがそれはペットか食い物にしかありません。自然に放して自立出来る動物ではないのです。

人間は繁殖のために子供を作るのではありません(今、我が国での少子化対策はまさしく繁殖のための対策としか考えられません)。

なぜ大会では私のいう家庭が作れないか？ 住まいが高価すぎるからです。自然が無いからです(行政は安全第一の公園を作って自然とごまかしています)。

とてもじゃないが若い夫婦の財力では都会で家と庭がある家庭など手に入れる事が出来ません。マンションでは子供作りも2人までが限界です。一人っ子が多いのも特徴です。そして、祖父母4人のベツトになっています。

マンションと言う「カゴ」、一戸建ての家も住まいだけ(有ってもガレージ)で(庭Ⅱ自然)の無い家しか手に入れる事しか出来ません。それも一生払わなければならぬローンを組んでです。ローンが終わった頃には何の価値もなく、一生住宅ローンの支払いを気にした人生なんて何の意味があるのですか？ と問いたい。

家を一軒持つためだけにこの世に生を受けて来たような人が居るのを見るに付け他に方法が無いものか？と無い知恵を絞って考えました。行き当たりばったり実践して来た私の経験も含めてもっと良

い方法があると言う事に気が付きました。先日地方再生のために企業誘致をしても従業員が集まらないという記事がありました。アタリ前でしよう！ 地方には年寄りだけしか住んでいません。地方に企業が進出するのはまだ早い。都会の住人は元々地方から出て来た人々です。もう2〜3世代に渡って街に住み着き帰るべき故郷を失った人ばかりです。

都会で生まれ育った若い夫婦に自分たちの世代から子供たちや年若い両親が帰る事が出来る故郷をムリ無く作る事を考えましよう。金もなく、土地もなく、住まいも無い若い夫婦が子供をイッパイ作って楽しく暮らす方法があれば国家予算を無駄にバラまく事も無く、移民に頼る馬鹿げた政策も不要です。

なぜ故郷をつくるのか？

前記しましたように子供作り、子育ては都会では出来ない。その根拠は子育て出来る環境(家庭)が大会では若い夫婦には高額になるために確保出来ないからです。住宅もわが国では需要と供給のバランスの上で規模と価格が決まります。そして、辛うじて大きなスペースに親と同居していた子供も戦後の教育の賜物か親と同居を嫌う核家族化が一般的になり、バカな相続税のお陰で遺産は分割されてドンドン家は小さくなってしまいました。

私は現在の相続税の決め方(高額になるほど税率が高くなる)には大反対です。理由は先人の貴重な遺産が潰されて行く事です。親や先祖が残した貴重な遺産はその人達が購入した時には正当な税金を払っているはず。それを相続する事は先代の文化遺産としても、その人の子孫は次の時代に守り引き継ぐ義務もあり。それを左巻き達はヒガミ根性で不

公平だと声を大にしているのです。価値あるものを残すために努力しなかった自分の先代を恨むのが筋なのに努力して子孫に残してくれた他人の親に対するネタミ心からとしか考えられません。だから今の年寄りたちは自分の稼いだ物は自分で使い切ろうと老体にムチウって海外旅行や国内旅行、ブランド品の購入に浪費しています。

また途中でスレましたが元に戻して。都会で子育てに理想的な家庭を持つとしても一生かかるローンを組んでも口くなしペーは確保する事が出来ません。金利も入れて4〜5千万する住宅を買っても人生が終わる頃には価値もなく引き継いでくれる子供にも相続税と言う重税と兄弟等分しなければならぬ遺産相続では残す方が罪な事になってしまいます。

今の日本の政治はコレデモかコレデモかと言うくらい国民に過酷な政治を行なっています。日本は表面上は独裁国ではありませんが、特に戦後やっている事は戦前西洋の国々が植民地で住民を過酷な条件で搾取したより多くの金額を税金と言う形で搾取しているのです。

昔は働きの者は裕福になれたのですが今は働きの者は報われないのです。裕福になるには法律の裏を行くか、他人をだますかという日本人が恥として来た、汚い事をやらなければなりません。正々堂々とという言葉は死語になりつつあります。情けない事ですが今の大人はそのように洗脳されて来たのです。お金さえ儲ければ幸せになれる、そしてセレブとしてマスコミに報道され優越感に浸れると。

心ある若者は(若者でなくても)そのような価値観を今こそ捨てて誇りある人生を歩み始めて欲しいと思いたいこのブログ

を書いています。

今書いている事もこれから書いて行きたい事もすべてが空理空論ではありませんが、これまで私が76年歩んで来た失敗も沢山あった人生から書いています。後になればこう有って欲しい、こうすればという希望を入れて行きますが失敗を重ねながら今まで楽しい人生を歩んで来たことが筋になっています。

人は故郷を持つという安心感は否定出来ません。田舎の現状では解決出来ない何かがあったので多くの人は大都会に出て生活を始めたはずで、そしてその人達も戦後からでも二代目になり三代目になって帰る事が出来る故郷を失って来ました。

私が故郷づくりを始めようと言い出したのは首都圏直下型地震や太平洋側の東南海大震災が近づいているとマスコミが騒ぎ出した事が最初の原因です。

これまでも何度も書いて来たように自然災害での死者の多くは人口密集地です。遠くは関東大震災などです。日本の国は災害大国と言われるくらい自然災害の多い国です。これだけはどうしようもありません。

せっかくローンを組んで確保したと思っただけ家も震災で壊滅しローンだけが残ってしまったという人達も多く居ました。再建のためもう一度ローンを組む悲劇に見舞われた人さえありました。だったらどうするか？方法は沢山あるはずで、国民が一人一人、自分ならどうするか？を考える事から初めて、考えに従って行動する事です。

だげと自分一人では心細い、家族でも考えがまとまらない、相談する人も無い行政に相談しても答えが出ない。親族に

相談しづらいなど多くの原因があります。

そのような人達のために力になる組織を作る事が出来ないか？と考えって立ち上げたのが「NPO法人「こっこ屋本舗」」なのです。

今書いているこのブログがNPO法人「こっこ屋本舗」の正式な方針ではありませんが理事長の私が薦めて行きたい方針であるのです。

NPO法人の活動の中で「宗教」と「政治」については活動が認められていません。「宗教」の活動は私の職業である神職を通じて、政治的な発言行動は私の信条を個人として書いて行きます。

イギリスの貴族にならう・仕事は街で住まうは田園で

老後の生活を自然豊かな田舎で。今は「田舎暮らし」と言う言葉が流行っていますが、街で暮らした年寄りが定年後田舎に移っても不便だけが目についてがっかりするのが関の山です。

田舎の古民家を買って改装して住むことが流行になっていますが手放された古民家を見て来た私にとっては家が建つほどの改装費をかけて挙げ句に不便な田舎に愛想をつかして不満タラタラ。ヤフな町の人には耐えられない自然もあります。一夜漬けの田舎っぺでは耐えられません。リゾート気分であるべきではないと思います。その上でなお、私は若いカップルがここで子育てと自分たちの故郷づくりをするべきだと薦めたいのです。その理由は「田舎暮らし」と言っただけで、惨めな印象を与えるのです。日本では以前から「田舎もの」と言う言葉は人を差別する言葉でした。人は長年差別されると本人も差別され

てアタリ前のように萎縮してしまいます。だから私は「田舎暮らし」という言葉は避けて「田園生活」と呼ぶようにしたいと思っています。

イギリス貴族の田園生活と言えれば少しは希望がわいて来ます。男も週末には家族と一日中(2日も)水入らずで楽しむ事ができ、これからの生活の主流を自分たちが作るのだと前向きに考えれば良い事です。イギリス貴族は地方に荘園として領地を持っていましたから自らを卑下するような気持ちではなく、自然豊かな所で子育てをして都会で政務や事業を行うという日本人から見たら格好の良い生活形態がとれたのです。

日本の田舎が衰退の一途をたどるのは世間を知らず地方に閉じこもったままだからだと思っています(その内に地方の人が見れば怒るような原因について書いてみます)。

イギリスのように(今やアメリカも)心ある人達は家族を郊外に移し自らは都会で働き週末は家族と田園生活を楽しましむという形態が流行になればよいと思っています。

日本も将来は都心はオフィスや工場となり、住居地帯はスラム街になると思います。その前に若い夫婦は出来るだけ早く田園生活を実現する先駆けになると言う使命感を持って欲しい。田園に住み、子育てをして、大学は都会で、仕事は単身で何処へでも、家族は田園生活を楽しましむ、定年後は夫婦でゆとりある余生を送る。

この、「田園生活」の構想は今の日本ではマスコミでは言いたい人が有ってもいえない事です。コメントターや有識者と言う輩が言えば次からは声が力になくなってしまいます。

1) 夫は街で働いて生活の糧を家庭に持ち帰る(働いて給料を稼ぐと言う事)。
2) 妻は田園で子供を育て教育をする。基本はたったこれだけです。

このような生活は世界の距離が短くなったから出来る事です。ただ一力所だけに留まっていると距離が短くなった事に気が付かない。それにしてもイギリス貴族たちの距離感はずいぶん違います。世界に植民地を持ち世界の海にこぎ出して行った国民だから来た事ですね。貿易立国をうたう日本人も特亜の国の国民と違い日本の国に愛着を持って居る人種ですから世界に羽ばたいても晩年は落ち着ける故郷を持ちたいものです。

定年後は、溜めたお金を無駄使いして、街中のマンションで病院通いの末、死を待つだけの人生なんてミジメではないでしょうか？

500万円で二百坪の土地に家族4人で住む家を作る

この故郷づくりの計画は二百坪以上の土地を手に入れ300万円です。夫婦と小さな子供が2人が生活出来る家を建てる事です。家が300万円だからといって自分で建てるではありません。基礎も作ってもらい、電気も水道も敷いてもらい、家の中には風呂もトイレも台所もある事が前提です。そして、夏は涼しく、冬は暖かい構造が必要です。私自身の試案があり設計事務所や工務店などの知り合いにこの予算で出来る家の設計図を要請し始めました。

大きさは床面積は10坪です。これにロフトを付けて寝室又は物置に確保します。有効な面積は15坪ほどになります。小さなマンションくらいの空間は確保出来ます。必ず住める家がこの価格で完成

させる事が出来ると確信していますが、実際にこの計画で住もうと言つ若い夫婦が実行してくれるかにかかっています。

しかし、まだ活動を始めていない(活動は4月からの予定)「NPO法人(こ)こ屋本舗」ですから資金も無く、私自身も商売をやっていた20年近く前なら何でもなかった500万円ですが、今や少ない年金と息子からの仕送りで暮らしている後期高齢者ですから、これから一年かけて来春には着工出来るように資金調達を考えます。それまでにはいろいろ案を出し、発表して皆さんのアドバイスを批判、援助を頂いて実行したいと思っています。

まず土地の二百坪ですが一坪1万円以内の土地を求めます。候補地は通勤には不便な過疎地になります。その上宅地ではありません。完全な畑地でもありません。後ろに(北側に)山林が広がり南が開けた明るい場所なら充分です。土石流の恐れが無い所を探します。丁度、我が家の立地のようなところ、日本全国過疎地だらけですからいくらでもあります。家が出来れば家族が移住して、まず小さくても家庭菜園を作ります。畑地でなくても野菜は作れます。家のまわりは190坪あるのですから、開墾から始めるのです。昨年私は4坪ほどを書獣に荒らされないように囲ってキュウリ、トマト、ナスビ、サラダ菜等何種類かを植えました。夫婦では食い切れんぐらいになりました。地面は石ころ混じりで石を除いたら地面が低くなるのでホームセンターで一番安い土を買って来て使いました。今年

はその上に敷地内の枯れ葉を積んでおいた腐葉土を入れてみます。

三年もすれば雪の降らない時期の野菜は自給自足が出来ます。周囲には未開墾の土地があるので家族で力を合わせて野菜づくりに励めば売りに出せるぐらいの野菜の収穫は出来ます。

何も無い所に小さな家を建てるのにも将来の一族の故郷の家を造るのでから計画的に作らなければなりません。

地震には、平屋(リフトはあるが)です。すから屋根を軽く出来ます。地震で屋根に押しつぶされる心配がありません。

台風には、南側に防風林を植えます。気があるだけで強風も思い切り和らぎます。この種類は落葉樹にします。夏は風と日差しを遮ってくれます。冬には日差しを室内まで入れてくれます。大雨には、川の流れから離して建てて後ろの山が崩れないような地形を選びます。竜巻は、山間部なら発生しません。津波は、海からはなれた高台なら安心です。

地震や火事は、運が悪かったと諦めて建て直しても500万円なら2重ローンで苦しい目に遭う事も少ない。

子供が大きくなれば土地はあるので増築はやり放題、物置も造り放題、ローンも500万円を10年で返済計画を立てれば三〜四千万円を一生かけて返す事を考えれば楽勝です。

購入資金の借り入れを何処からするか? 私は地元の農協がやってくれば安心だと思っています。借り入れの金利はどうするか? 私はこれこそ故郷再生資金として国が農協に払ってくれば良いと考えています。

収入はどうするか? これこそ男の出番です。単身赴任で大都会で働けば良いのです。そのために企業は単身赴任者の

ために仕事場の近くにワンルームの社宅を作れば人材の確保出来るし営業期間中は従業員は脇目も振らず働いてくれます。そして、金曜日の夕方には家族との田園生活が待っている我が家に帰って2日間子供や妻との充実した時間を過ごす事が出来ます。

ここまで書くと、妻の立場は田舎で子育てだけか? とシエンダフリーとか言うウルサイ人達が、女の主権を振りかざしますが、昔から日本の家族は女が中心でした。その中心の主婦が我が家の将来を担う子供たちを教育する事が大切なのです。大切に育てた子供は親が年若いから大切に守ってくれるのです。女性を労働力と言ひ換えて低賃金で使おうとする今の日本の産業界は考え直すべきだと思います。人を安くこき使うために外国に工場を移したり、また日本に戻したり、犯罪の予備軍になる外国人労働者の移民を考えたりする事は税金のために国を売り渡す売国奴と変わりありません。

日本人ならよく考えて、苦しいときも労使がお互いに日本の国の永遠の繁栄を考えて欲しい。

電車の窓から見える景色は、子作り、子育てには??

02月28日、毎月この日は弟と一緒に大阪の鶴橋に家賃取りに行きます。今日の行程をたどると、西大路駅から東海道を梅田まで、同じく西で桃谷まで、帰りは桃谷から吹田へ、吹田から淡路、阪急京都線で西京極へ、歩いて西大路八条へ。電車の窓から見る景色と歩いた道すがらの光景はまさしく現在の都市の住宅事情がそのままに出ています。環状線から見える商店もシャッターが下りたまま売り家、売店舗の張り紙が目立ちます。

阪急京都線の沿線は昔は比較的ゆったりした広い家が多かったように思いました。今は線路脇まで庭の無い同じ形のセマツ苦しい家ばかりが密集しています。沿線の北側は山が広がる緑の風景が多かったように思いましたが今は山を家々が駆け上っています。何処を見ても「子供遊び場所」は見当たりません。子供は自然の中で遊ぶ事が大切です。児童公園などは自然ではありません。

何時も言う、「家庭」とは「家」住まい、「庭」自然、の無い「家」住まいは「オリ」か「カ」です。「オリ」や「カ」でも子作りは繁殖は出来ませんが「子供の自立」自分でエサをとる」は教えることが出来ません。と言つことは、自然の無い所では「子育ては出来ない」と言うことです。その上、子作りも1〜2人までです。

都会に人口が流入しては少子化は免れないのです。少子化対策は女を労働力と見ないことと、ふる里を失った都会生活者の故郷創成(田園生活のすすめ)しか日本の復活はありません。

中村重行氏
京都北山京北細野町・京北田貫町の神主。昭和40年〜平成7年まで登山用品店、運動具店他を経営。ヒマラヤ・プモリ登山隊長等を務める。34年前から京都北山山中に住み、趣味は書獣駆除などと称し鹿や猪の猟。靖國神社を守る裁判代表補助参加人。周囲は「道楽宮司」と呼ぶが本人一向に痛痒を感じず。「今年は喜寿ですがおかげさまで元気に」『NPO法人(こ)こ屋本舗(090-3710-4815)』を立ち上げました」と意気軒昂。

英霊を守る裁判、訴訟経過状況 H27-2-19 現在

【大阪】

- 第 1 次攻撃隊
(津川雅彦氏以下 20 名 [No.1~20])
H26-10-16 津川雅彦氏ら 20 人大阪地裁に補助参加申し立て
12-26 大阪地裁却下
12-26 大阪高裁に即時抗告
2-16 大阪高裁却下
2-18 最高裁に特別抗告
現在 決定待ち

- 2 次攻撃隊
(長尾敬衆議院議員等 1060 名 [No.21~1080])
H26-1-8 2 次攻撃隊大阪地裁に申し立て
2-6 大阪地裁却下
2-13 大阪高裁に即時抗告
現在 決定待ち

◆口頭弁論

第 1 回	H26-7-23	10:00	大阪地裁
第 2 回	H26-10-21	10:00	大阪地裁
第 3 回	H27-1-9	10:00	大阪地裁

◎次回公判 (第 4、5 回)

2月23日 14:30 (13:50 頃抽選)
4月10日 10:00 (9:30 頃抽選)

【今後の予定 (東京、大阪とも)】

- 3 次攻撃隊
(山口宗敏 [多聞中将御子息] 氏等 930 名; 210 名台湾より参加 [No.1081~2010])
発艦準備完了、エンジン全開 全速前進ヨーソロー!
70 年前の轍は踏まず
- 1 次、2 次、3 次、攻撃参加計 2010 名
- 4 次攻撃隊 (台湾より 1500 名; 鋭意入力中)

【東京】

- 第 1 次攻撃隊
(津川雅彦氏以下 15 名 [No.1~15])
H26-9-15 東京地裁に補助参加申し立て
11-25 東京地裁却下
12-3 東京高裁に即時抗告
(1-16 抗告理由書提出)
H27-1-27 東京高裁棄却
(高裁は 10 日で理由書をきっちり読んだのか!)
2-4 最高裁に特別抗告
現在 決定待ち

- 2 次攻撃隊
(長尾敬衆議院議員等 1065 名 [No.16~1080])
H26-11-25 東京地裁に補助参加申し立て
12-26 東京地裁却下
H27-1-6 東京高裁に即時抗告 [No.16~26]
2-20 東京高裁抗告却下
3-5 最高裁特別抗告 (予定)

◆口頭弁論

第 1 回	H26-9-22	14:00	東京地裁
第 2 回	H26-12-1	15:30	東京地裁

◎次回公判 (第 3 回)

3月9日 14:00 (13:20 頃抽選)

※裁判終了後 (14:15 頃) 裁判所裏、弁護士会館 504 号室で報告集会を行います。
黄ジャンパーでスタッフがお待ちします。

無双の勇「台湾軍」の再来か 台湾からも迎撃

英霊を被告にして委員会が始めた、英霊をお守りするための裁判が順調に進んでいるようです。

裁判を 4 つ (東京・大阪、1 次・2 次) 同時進行しているの、時々わけが分からなくなってくる。しかし、とにもかくにも順調に進んでいるのは間違いなく、各位のご支援のたまもの。まずはお礼を。上の表の通り、体当たりし却下されたらまた体当たり。何とか 5 月中にはけりをつけたい。

今回特筆すべきは、1 月の終りに徳永弁護士が、台湾の「私は日本人だ！」と訴えているグループのお招きで訪台し、「ぜひ皆様のお力を・・・」と今回の作戦をご講演されました。そうすると 1000 名の方が委任状を提出されました。今生懸命入力しています。

さて、英霊を被告にして委員会では当初は参加人を 2000 名程度と考えていました。その目標はほぼ達したものの前記の通り台湾より 1700 名もの参加があり、まさか、ほぼ同数では本土の我々としては**面目がつかせません**。4 月末をめどに第 5 次募集 (目標 1000 名) を開始しました。今一度補助参加のお声掛けのご協力をお願いいたします。

弊紙 No.1 (H26-12 月) 号にも書かせていただきましたが、東京は大口弁護士 (原告) と村田春樹英霊を被告にして委員会副代表が法廷で怒鳴りあうなど、原告はやたら元気ですが、大阪は 1 月 9 日の口頭弁論で、原告は全く戦意がなく、勝負はホボついた感です。

また、各、抗告理由書等は順次工巧にアップしています。また相手側の書類にご興味のある方にはコピーを郵送いたしますのでお問い合わせください。

あなたはこの写真に堪えられますか

現代撫子倶楽部 中谷 良子



写真の中の華人母親は殺されていますが
子供がまだ必死におっぱいを吸っています

とても悲痛な出来事ですが、結局は支那人の力と利益こそが最も優先されるというこれ以上ないシンプルな価値観の犠牲だと思えます。中谷

【以下情報】

ミャンマー北部のある写真も中国人に衝撃を与えました。写真の中のこの華人の母親は殺されていますが、子供がまだ必死におっぱいを吸っています。何が起ったのでしょうか？

ミャンマー政府軍と中国国境に近い少数民族武装勢力の間の戦争は、2015年さらに激しくなりました。1月14日、マイクログ(微博)では、数百人の中国人が作戦区域で足止めされていると伝えられました。1月18日、戦火

は中国雲南省瀘水県六庫鎮にまで燃え移り、住民らが慄きました。しかし中共大使館は「中国人への影響はない」とミャンマー政府軍に対し公言しました。これらの中共官僚に聞いてみたいですね。「微博の写真は見たのか」「真偽は調査したのか」「中国人への影響は本当じゃないのか」と。

中国人とは一体何なのでしょう？ミャンマー北部のコーカン人はまぎれもない中国人で、彼らは中国語を使い、電話番号も雲南省の局番を使っています。彼らは中国文化を認めており、彼らはまぎれもない中国人なのです。ミャンマー国内にはこれら少数民族以外にも中国からの華人も少なくありません。彼らはミャンマーに渡り、玉の採掘や伐採をやっていますが、武装勢力に保護費を払って、自分の身を守っています。戦火が激しくなったため、多くの中国人がミャンマー北部で足止めされています。これらの人々は中共大使館に「不法」という理由で差別され無視されています。しかしミャンマー北部の戦禍は中共と直接的な関係があります。

1960年 中共は「中緬国境条約」において、清朝が英国に貸していた「勐卯三角洲」をミャンマーに割譲しました。清朝と中華民国に忠誠を誓っていたこれらの土司と華人はミャンマー政府の目の敵となりました。共はこれらの華人を支援しないばかりか、却ってミャンマー政府軍を支持しました。コーカンの華人と土司は中共に裏切られたのです。

中共のCCPはイスラム国の暴挙を興味津々に報じましたが、ミャンマー北部の戦禍については見て見ぬ振りをしています。中共のこのような華人への裏切行為は初めてではありません。1968年イ

ンドネシアで華人排除事件発生時、中共は「他国の内政に干渉しない」と言いました。中共は干渉しなかったのですが、米国とカナダは干渉しました。カナダは特使まで派遣しました。インドネシアのハビビ大統領はカナダ特使と会見した際に聞きました。

「カナダ華人がなぜ外国の内政に干渉するのか？中国も干渉しないのに」カナダ特使は「これは人権問題だ。私はカナダを代表する」と答えました。

これらの歴史上の事は一つの事実だけを物語っています。つまり中共の核心利益は自身の統治と政権の維持であり、中国人の利益ではないのです。中国人にとって中共暴政マシンを愛するのを「愛国」と言うのなら人権犯罪者を愛するのと同じです。中国の国民とこの民族を愛してこそ「博愛」であり「善」なのです。

前(162)号で、大阪府茨木市の幼児餓死事件について、大阪府と大阪市に陳情書を出した件を報告しました。この写真はそれと同じくらい心が痛くなる話です。世の中あってはならない話が多すぎます。私は、世界中のことまではできませんが、せめて国内ではこのような悲劇が起きないように、子供たちのため徹底的に戦っていきたくと思います。 増木

【茨木市の幼児餓死事件】

平成26年11月20日、3歳の長女に十分な食事を与えず衰弱死させたとして、大阪府警捜査1課は殺人容疑で、義父の男性容疑者(22)と、同居の実母で無職の少女(19)を逮捕した。司法解剖の結果、長女の腸にはアルミはくやロウ、タマネギの皮が残っていたという。府警は空腹を満たすために自らのみ込んだとみている。

最近のニュースに思いつくこと

M情報 増木重夫

与那国島への陸上自衛隊の配備 についての住民投票

「この住民投票に問題はなっ。」

1つはサンケイが指摘するように、国歌の国防問題を地方自治体の住民投票で扱ってどういう意味があるのか。

「与那国に自衛隊が来ると国防最前線になり、国際紛争にでもなったら危険だ。だから石垣島や、沖縄本島または本土に移住したい。その費用を出せ！」という決議ならまだわからないでもない。

所沢市の小中学校クローラー設置案件や、大阪都構想の住民投票が住民投票の限界ではないか。そもそも住民投票は憲法前文の1行目の「我らは正当に選挙された代表者を通じて行動し・・・」という議会制民主主義に矛盾し憲法違反なのだ。

2つ目は、中学生にも投票権があること。投票には責任が発生する。住民投票の結果がどっちに転ぼうが、将来、その結果で島に災いが生じたら、その批判に中学生もさらされる。この住民投票は、中学生でも担げる軽い事案なのか。まさか、「無責任だから適当に投票してね。」と言っているわけではないだろう。中学校の生徒会の選挙と、日本の国防問題の投票とごっちゃにしているのではなからうか。子供に到底担げない重さの荷物をなぜ担がせようとする。与那国の大人は鬼畜生か。

中学校の先生が日教組だったら、子供達が感化され全員「反対票」を入れる。だから問題だ。と言う指摘がある。これ

は当てはまらない。じゃあ、先生が保守ならいいのか。と言う話。先生が日教組であろうが保守であろうが、そんなことは関係のない話で、「子供たちが担ぎ切れる案件ではない。」ということだ。

中学生に投票させることが人権尊重ではなく、投票させないことが人権尊重なのだ。子供を政治闘争に巻き込むな。まして外国人など、論外の論外だ。

「税金と雇用が増えて島が活性化・・・これは少々邪道だが、まっ、いいか。」

中学生、永住外国人にも「投票権」国防を委ねる愚 「邪な奇策」は問題だらけ 2/19 サンケイ

日本最西端の与那国島(沖縄県与那国)

への陸上自衛隊「沿岸監視隊」の配備について賛否を問う2月22日の住民投票が1週間後に迫った。配備賛成派と反対派双方の訴えが熱を帯びるが、陸自配備を争点にした過去2回の町長選では陸自を誘致した外間守吉町長が連勝しており、同じ問題が蒸し返される事態は極めて異様だ。しかも、日本の国防を左右する重要政策にもかかわらず、住民投票で中学生と永住外国人に投票資格を与えた住民投票の正当性そのものが問われる問題といえる。

活性化 vs 健康被害

賛成派は「自衛隊に賛成する会」を設け、陸自配備の意義をまとめた資料を作成した。人口減と高齢化が進む中、若い陸自隊員160人と家族90人(予想人数)が町民となることで税金と雇用が

増えて島が活性化し、災害対応を含め「島の安心・安全がしっかりと守られる」と訴えている。

百人の会、与那国町議会に陳情

「16歳(17歳)の子供たちに住民投票権を与えることが適切か否かの再議論を求め陳情

平成27年3月1日

与那国町議会議長 様

陳情者 ZPO法人教育再生地方議員百人と市民の会 理事長 大阪市議員 辻淳子

貴議会、議員各位におかれては、日夜、日本国、貴自治体の為のご苦労、まずはお礼申し上げます。

私たちは、「現代社会における数々の矛盾の背景に厳然と横たわる、学力低下、道徳心の欠如等、教育の荒廃を直視し、未来を担う日本の『子供達』のために、地方議会を教育改革の場としてとらえ、なにかんづく健全な学校教育の再生をめざす。」ことを目的とし、国会議員や大学の先生を顧問とし、全国地方議員約250名、一般会員500人を擁すZPO法人です。

実は先日(2月22日)、貴与那国町で行なわれました、住民投票についてです。今回の住民投票については、「国防の問題を、一地方自治体が見解を言うことが出来るのか。」などの意見があることは新聞等で承知しています。また、憲法違反だという報道もあります。それはそれといたしまして、「教育再生」には子供たちの教育環境の再構築が最も重要と考える私たちが問題にしたいのは、今回の貴自治体の住民投票は報道によると16歳の少

年少女たちにも選挙権があるということ。また、実際は16歳(中1)から投票に参加させたという情報も入ってきています。

そもそも我が国の憲法は、前文の1行目で「正当に選挙された国会における代表者を通じて行動し」と、議会制民主主義を規定し、その例外として、65条で、国民(住民)投票を認めています。また地方自治法第74条に則り実施するわけですから、この住民投票は大変重いものです。まして今回は、日本国の将来の安全保障をどう考えるかという重いテーマです。その重いものを16歳(17歳)の子供に担がせていいのか。否、到底担ぎきれないほどの重さがあるのではないのでしょうか。第1次安倍内閣は、国民投票法を制定し、国民投票は18歳以上と規定しました。18歳でも無理があるという意見が少なからずあります。

私たちは保守的な立場に立つ団体です。この子供たちを日教組の先生が偏った授業でミスリードする可能性がある。それなら、保守的な先生が授業をしたらいいのか。否。そういう問題、イデオロギーで偏った授業が行なわれると子供たちの判断が間違つ。そういう問題ではないのです。だれが授業をしようが、16歳(17歳)の子供たちが、そのような重大なテーマの責任を負えるのか否かを考えていただきたいと思えます。埼玉県所沢市で行なわれた、中学校にクローラーを付けるか否かの住民投票なら、中学生の参加もまだ目をつぶれるかもしれませんが。直接自分たちの環境のことですから。言うまでもなく選挙の結果には責任があります。子供たちにその責任の一部を押し付けるのではなく、大人たちが大人の責任で結果を出し、子供たちにより良

い生活、教育環境を遺すべきではないかと思慮します。島にとつて大変重要なことだから、大人の責任で決めなければならぬのです。

自衛隊が駐屯するといことばかりではなく、不都合なこともあると思います。しかし、地勢的に日本の安全保障上、どうしても与那国町に自衛隊の駐屯が必要というのが専門家の意見なのでしょう。

その負担をおかけすることは大変申し訳なく思います。もちろん我々で出来る協力は惜しまないことは言うまでもありません。

しかしそれはそうとして、今一度貴議会におかれまして、15歳(13歳)の子供たちに住民投票の選挙権を与えることが適切か否か、議論していただきたく陳情いたします。

厚木2女兒、母子殺害事件

またあつてはならないことが。親が子供を殺害(未必の故意も含め)した事件は、戦後70年、増加しているのか減少しているのか統計を見たいものだが、私は圧倒的に増えているような気がする。人権人権と言いつつ、子供を殺すことほど人権に逆行する行為はない。

「育児に悩み」・・・育児に悩んだら子供を殺してもいいのか。『悩んだのだから犯罪を犯しても仕方がない』と言いたいのか。責任転嫁も甚だしい。

育児に悩んだのは公機関が相談に乗ってくれなかったから。だから公(社会)が悪い。彼女が積極的にそう思わなくとも、そのような世間の空気が彼女の犯罪を後押ししていないだろうか。

子供を殺すなど、犬畜生にも劣る非人間、非動物的行為である。そのことをも

つと明確に教育機関は児童生徒に教育しておくべきではなかったか。彼女は二人殺したのだから、死刑もあり得る。私が裁判員なら「死刑相当」と言うだろう。

公機関が相談に乗らなかったから公が悪いのではなく、一切の弁解ができない重罪であることを教えなかった公に責任がある。教育機関の責任は重い。増木

「育児に悩み」厚木2女兒死亡 29歳母、育児に悩み殺害か
毎日新聞 2月17日(火) 12時16分配信

神奈川県厚木市のマンションで16日夜、母親が娘2人を死なせた事件で、殺人未遂容疑で逮捕された同市水引2、無職、山本夏美容疑者(29)が「2人の首を絞めて殺した。育児や家事をこのまま続けられるか不安だった」と供述していることが、捜査関係者への取材で分かった。県警厚木署は、山本容疑者が育児に悩み娘2人を殺害したとみて、容疑者を殺人に切り替えて捜査する。

同署の調べでは、山本容疑者は会社員の夫(35)と死亡した長女の果歩(かほ)ちゃん(6)、次女の紗季(さき)ちゃん(3)の4人暮らし。果歩ちゃんは幼稚園の年長、紗季ちゃんは山本容疑者が自宅で面倒を見ていた。事件当時、夫は会社から帰宅していなかった。夫は「昨年10月ごろから妻は『育児に自信がない』と言っていた」と話しているという。

同署によると、一家は2013年4月にマンションに転居。マンションの住民は「近所付き合いはほとんどなかった。(山本容疑者は)いつも伏し目がちだった」と話していた。【水戸健一】

大阪朝鮮学校社会保険2億円滞納

一般論として、源泉徴収した税金や社

会保険料滞納は「横領」に当たる。源泉は100%、社会保険料は会社と従業員の折半だから滞納額の1/2は従業員から預かったものだ。預かり金を払わないわけだから、「横領」。昔、私の会社も保険料が払えないことがあった。その時、社会保険事務所の担当者から、「会社は横領ですよ。」と言われた。余談だが、それから数年して消えた年金。だからフチ切れたのだ。また、この社会保険料の請求(社会保険事務所から各会社への)には時効がある。3年か5年だったように思う。

朝鮮学校を「横領」で刑事告発も検討。ただ警察が受けるだろうか。世の中保険料滞納の会社など山ほどあるから。むしろ補助金カットの理由にした方が効果大のような気がする。

おつるさんも激昂!

<http://blog.zaq.ne.jp/otsuru/>
おつるのブログより

大阪朝鮮学園、社会保険料2億円超す滞納 私学事業団は強制徴収せず滞納が続いているにも関わらず、日本の教員免許も持っていない朝鮮学校教員の健保や年金に、私学事業団から払われ続け、私学事業団が負担を強いられるとすれば、日本の私立学校の教員が、給与、賞与の中から支払っている保険料が流用されているということ。

朝鮮学校の滞納が続くのであれば、他の日本の私学の教員の年金額、保険料にも影響していくのではないかと懸念する。真面目に給与から保険料を支払う日本の私学教員が、なぜ北朝鮮テロ組織のスパイ養成機関の作業員の保険料や年金を負担しなければならぬのか、おかしい。

しかも、この大阪の補助金との関連を見ても、補助金停止が学校経営の悪化、保

険料滞納につながっていることは補助金はやはり、朝鮮学校に通う子供たちに援助されるのではなく、総連・学校の運営、北朝鮮の出先機関の資金と関連しているということ。 中曾千鶴子

大阪朝鮮学園、社会保険料2億円超す滞納 私学事業団は強制徴収せず
産経WEST 15-02-10

大阪府内の朝鮮学校10校を運営する学校法人「大阪朝鮮学園」(大阪市)が平成24年度以降、日本私立学校振興・共済事業団(私学事業団)へ納付が義務づけられている社会保険料の掛け金を滞納していることが9日、関係者への取材で分かった。教職員給与・賞与からの天引き分と法人負担分を合わせた未納額は2億円超に上るといふ。事業団は強制徴収などに踏み切らないまま、教員らに健康保険や年金の給付を続けており、批判の声が高まりそうだ。

大阪朝鮮学園の社会保険料の掛け金は、私立学校教職員共済法に基づき、教職員給与・賞与の約22%を教職員と折半で負担。学園が給与・賞与を支払った翌月末までに、事業団に一括して支払う義務を負うことになっている。

鹿児島全県で土曜授業が復活 全国初、公立小中で月1回

西日本新聞 2月20日(金)

鹿児島県教育委員会は19日、2015年度中に県内全45市町村の全ての公立小中学校で、土曜授業が導入されると発表した。実施日は原則第2土曜日の毎月1回で、学力向上を図るのが狙い。文部科学省によると、都道府県単位で土曜授業が完全復活するのは、学校週5日制に完全移行した02年以降、全国で初めて。

少しは利口になったか日教組

少しは利口になったか、日教組！ 増木

日教組 タブー視 解除？ 「特攻隊」題材に平和授業…涙をこらえていた」と朗読の教諭

産経新聞 2月1日(土)16時30分配信
山梨県で行われている日本教職員組合(日教組)の教育研究全国集会(教研集会)は2日目の7日も多くの授業実践が発表された。例年通り、政権批判や憲法改正反対などイデオロギー色の強い報告が行われる一方、先の大戦の特攻隊員たちの生き方を題材にした平和教育のレポートもあり、子供たちの心に響く様子が伝えられた。

大分県内の小学校の男性教諭は、平和を伝え続けられる人間を育てるには身近な教材が効果的だと考え、県内の航空隊基地から出撃した特攻隊員を題材にした平和学習を実施した。

教諭は5年生に、同県宇佐市の航空隊基地跡地の見学遠足を実施。子供たちはガイドの説明で、出撃前夜に酒を飲み「見事敵艦に突っ込んでみせる」と威勢のよかった隊員たちが、夜中になると故郷の家族を思い泣いていたことや、翌朝には一転、凜(りん)とした表情で飛び立っていったことを知った。

「なぜ命を捨ててまで戦ったのか」。子供たちはそんな思いを深めたという。ガイドから「命を軽く考えていた特攻隊員は一人もいない」「お国のために」とよく言うが、ほとんどの若者は家族や恋人など大切な人を守るために戦った。「大切な人を守るためにお国のためだった」などの説明を受けた。

子供たちの感想文には「日本のために戦ってくれたみなさんにありがと」と言いたい」「平和な時代に生まれてよかった」といった感謝がこぼれ出た。

6年生の授業では、ある特攻隊員の母の手記を教諭が朗読。

「久しぶりだからお母さんの懐で寝るよ」と申す息子の体をしっかりと抱いて、私たちが親子3人は川の字になって眠りました。(略)こうして最後にわが子を2晩も抱きしめて寝ることができました私は他の特攻隊員のお母さま方には申し訳ないほど幸せであったわけでございます」朗読後、目を真っ赤にはらした子供たちから「おれ、泣きそうや」「おれも」との声が上がったという教諭自身も朗読中、「ぐっ」と涙をこらえていた」と明かした。

皇学館大学の渡辺毅(つよし)准教授(道徳教育)は「戦争の悲惨さを強調する手段として特攻隊が使われている面があるのは残念だが、日教組が『戦争の美化につながる』としてタブー視してきた特攻隊やその家族の手記を教材に使い、子供たちの心に響かせた点は評価できる」と指摘した。

デモやっぱり日教組、ダメダ、 増木

日教組教研集会 偏向的授業今年も報告

産経新聞 2月7日(土)7時55分配信
■生徒に「首相批判」あおる／「紀元節は嘘だらけの日」
教研集会では、生徒たちに憲法改正を目指す安倍晋三首相や「天皇制」への批判をあおるなど、今年も日教組のイデオ

ロギーを一方向的に押し付けようとする偏向的な授業が報告された。

「権力を持つ者をしばる、これを『立憲主義』といいます。今の日本の憲法は『立憲主義の憲法』といわれるのです。さて、総理大臣の安倍さんはどうか？」

社会科教育の分科会で報告された授業実践によると、福岡県内の中学校の男性教諭は、憲法を教える授業で、憲法の尊厳

擁護の重要性に触れた上で、生徒たちに「こう語りかけ、憲法改正を目指す安倍首相への批判をこじました。」

「国民主権」の説明では、「国の行く末を最終的に決定する力、これが主権。それが国民にある、と書かれている。総理大臣にある、とは書かれていない。それなのに安倍さんは？」と問いかけ、やはり「首相批判」をあおった。

活動資金等)協力をお願い

【J支援等(口座)】
郵便振替 006008 4456547 MASUKI 情報デスク
三葉集会 57 郵便 千原中央店 004349 普通 増木書生

すは、平素より私どもの活動に力強いご支援を賜り心から御礼申し上げます。このレポートにもありますように、私どもは子供達に誇りある国を残すため、日々命がけで戦っています。ところが問題は活動資金。今まで以上にがんばります。何卒資金のご協力を伏してお願ひ申し上げます。

- ※ この、M情報機関紙は新聞の形態をとっています。活動の報告書です。
- 特に「購読料」は設定していません。カンパをよろしくお願ひいたします。
- カンパ金の主な用途は下記団体の、
 - ・ 活動の資料等の発送費・道路、公園

原稿・同封資料の募集について

弊会『M情報活動報告』は現在のごころ毎月全国約5千(目標1万)部発送しております。掲載ご希望の論文、情報等ございましたらご記入の表記事務所まで

でお送りください。また、弊紙はメールで発送しています。重さ制限は50gです。まだ余裕がございますので、資料等の同封が可能です。ご相談ください。

諸情報のメール配信について

『M情報』では、日々、全国各地の仲間から、または情報収集の専門家から情報が送られてきます。それをメールで転送します。内容はごよりも詳しく多種多様。「量が多過ぎた」とお叱りを受ける

ですが、試して一度受信してみませんか。ご不要でしたら即停止いたします。要領は次のアドレスに「メール希望」と空メールを(発信名義「NPO法人百人の会」)。
ht00prs@oregano.ocn.ne.jp